

ケペラーの聖母マリア

あかたにけいこ
赤谷慶子

フランスのルルド及びポルトガルのファティマの聖母マリアの奇蹟はあまりにも有名なれど、ドイツ・ノルトラインヴェストファーレン州のケペラーの聖母マリアを知る日本人は蓋し多からず。さは北西ヨーロッパ最大のカトリック巡禮地にて、毎年、主にドイツ及びオランダより聖母マリアを讃へんが爲に訪る。

このドイツ・ケペラーの聖母マリアは「慰め」の MARIA とも呼ばれ、希望のシンボルとして欧州よりの巡禮者を集む。十六世紀クリスマス頃の、信心深きヘン德里ック・ブスマンはドイツのオランダ國境に近きケペラーの野原に立つ十字架に向ひて祈りけり。その時「そなたはここにチャペルを建造すべし」との聲聞え來れりとの由。その後ブスマン夫人はまばゆき光に包まれしチャペルの夢をみたり。ブスマンは富裕なる男ならざりしかば、銅製の小さき聖母マリアの「繪」をして雨に濡るるを避けしめ奉らんが程度の祭壇を建つ。十七世紀より十九世紀に至るまで様々の奇蹟出來し、カトリック信者のみならず數多あまたの人々毎年ケペラーを目指して巡禮に旅立つ。而して捧げたる祈りを聞き届けられたる人々はチャペル、教会等の建造物を作り、ケペラーの名は漸次世に広まれり。

今日、毎年百萬を越ゆる巡禮の集つどふ聖地とこそは化したりけれ。



(令和二年五月二十三日受附)

